

日本語と日本文学

第五号

比喩文における語の相互関連度の測定……………芳賀 純…(1)
——隠喩と直喩の比較——

七夕独詠歌論——大伴家持の漢詩文受容—— ……田中 大士…(9)

『虞美人草』論——詩人・小野の造型——……………橋川 俊樹…(20)

版本狂言記の「おりやる」と「おぢやる」……………大倉 浩…(30)
——詞章整理のあとづけ——

日本語「スル」動詞と韓国語「hada」動詞の
対照的研究……………李 光秀…(左1)

漢字基底語の現代における位置……………吉村 弓子…(左12)

文学教育における主題指導の有効性(上)……………高木まさき…(左22)

昭和 60 年 11 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

- 一、投稿論文は三十枚程度。
 - 一、次号原稿ノ切は昭和六十一年二月末日。
 - 一、原稿送り先
- 305 茨城県新治郡桜村天王台一―一―
干 筑波大学文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

編集後記

編集委員諸氏の協力で、急造責任者として第五号をお送りできました。実務一切は、永年担当の名波氏と院生諸君の熱意にゆだねました。財政難のなかで七篇を収めました。年一回の発行ではもはや原稿を盛り切れません。総会で学会寄贈分の学会負担を決めていただきましたので、予定通り誌代が頂戴できれば、次号の発行は可能となりました。この間に、雑誌全般にわたる抜本策をお考えいただければと思います。

(奥野)

昭和六十年十一月二十日印刷
昭和六十年十一月三十日発行
第五号

305 茨城県新治郡桜村
干 筑波大学文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会
代表者 伊藤 博

発行所 (有) 笠間書院
101 東京都千代田区猿樂町二二一五
電話〇三(一九五)一三三二(代)
干 振替口座 東京 一五六〇〇二